

AI・ロボット時代における「人間中心の社会」の実現を求める要望書

内閣総理大臣 殿

経済産業大臣 殿

厚生労働大臣 殿

文部科学大臣 殿

デジタル大臣 殿

衆議院・参議院各政党・会派 御中

令和8年 月 日

**提出者： **

**住所： **

**連絡先： **

1. 要望の趣旨

現在、生成 AI、AI エージェント、ロボット等の技術は急速に進歩し、これまで人間が担ってきた多くの仕事を AI・ロボットが代替できる時代を迎えようとしています。

AI・ロボットは、人間にはできない危険な作業、極めて過酷な作業、大量の情報処理、膨大な計算などを担うことができ、人間の生活をより安全で便利なものにする大きな可能性を持っています。

しかし一方で、

「AI・ロボットにできる仕事は、できる限り AI・ロボットに任せる」

という考え方を社会全体の基本原則としてしまうことには、大きな懸念があります。

技術的に AI・ロボットで代替できることと、**人間社会としてそれを代替することが望ましいかどうかは、別の問題**だからです。

人間は AI やロボットとは異なり、一人ひとり能力、適性、意欲、価値観、人生観が異なります。

高い収入を得るために努力したい人もいれば、仕事はほどほどにして家族や趣味を大切にしたい人もいます。

高度な仕事を希望する人もいれば、比較的簡単な仕事を自分の生活に合わせて続けたい人もいます。

努力することを人生の中心に置く人もいれば、必ずしも仕事や努力を人生の中心に置かない人もいます。

また、努力によって能力が向上する程度にも、人によって生まれ持った違いがあります。

その違いを認め、それぞれが自分に合った生き方を選択できることこそ、人間社会の重要な特徴ではないでしょうか。

したがって、AI・ロボットの技術発展を止めるのではなく、

「AI・ロボットを人間社会の主人公とするのではなく、人間がそれぞれの生き方を選択できる社会を維持・発展させるために利用する」

という基本的な方向性を、国の政策として明確にさせていただくことを要望します。

2. 「技術的に代替できること」と「社会として代替すること」を区別すること

AI・ロボットが人間より速く、正確に、安価に仕事をできるようになったとしても、

「AI・ロボットにできる」ことだけを理由として、人間の仕事を一律にAI・ロボットへ置き換えるべきではありません。

例えば、AIが文章を書けるようになったとしても、人間が文章を書くことをやめる必要があるとは限りません。

AIがプログラムを書けるようになったとしても、人間がプログラムを作ることをやめる必要があるとは限りません。

人間が仕事をするときには、仕事を通じて経験を積み、技能を身につけ、社会との関係を持つという側面もあります。

しかし、これを「人間が行うことに価値がある」と政府が一方的に定義することも適切ではありません。

その仕事を人間が行うか、AI・ロボットに任せるかについては、効率性だけではなく、人間の選択、雇用、技能形成、地域社会への影響などを含めて判断すべきです。

3. 「人間にしかできない仕事」だけを残すという考え方にしないこと

AI・ロボット時代の政策を、

「AI・ロボットにはできない、人間にしかできない仕事を探す」

という方向だけにすることにも問題があります。

人間にしかできない仕事は、AIの進歩によって変化していく可能性があるからです。

それよりも重要なのは、

AI・ロボットでも人間でも可能な仕事について、人間がそれを担うことを希望する場合に、人間が仕事をする選択肢を社会から一律に失わせないこと

ではないでしょうか。

「AIの方が効率的だから、人間がやる必要はない」という判断だけで、人間の仕事を次々と消していく社会が、本当に人間のための社会なのかを考える必要があります。

4. すべての人を「高度人材」にすることを前提としないこと

AIによって従来の仕事が減少した場合、

「教育や再訓練によって、より高度な仕事に移ればよい」

という考え方があります。

しかし、人間の能力には生まれ持った違いがあり、努力によって全員が同じ能力を身につけられるわけではありません。

また、すべての人が高度な仕事を希望しているわけでもありません。

したがって、

「全員が高度人材になること」を前提としたAI・雇用・教育政策を進めないこと
を要望します。

人間の能力、適性、意欲、価値観、人生観が一人ひとり異なることを前提とし、それぞれが可能な範囲で自らの生き方を選択できる社会を維持する必要があります。

5. 若者が社会に入り、経験を積む機会を失わせないこと

AI・ロボットによる自動化を進める際、特に注意すべきなのが若者の仕事です。

従来、

簡単な仕事を経験する

↓

失敗する

↓

仕事を覚える

↓

徐々に難しい仕事を任される

という過程を経て、人間は技能を身につけてきました。

しかし、AIによって初級の仕事をすべて置き換えてしまえば、

「経験のない若者に経験を積ませる仕事がない」

という問題が起こります。

これは将来、高度な人材が不足する原因にもなります。

特にソフトウェア産業などでは、AIによってプログラミング、テスト、資料作成等の初級業務が急速に自動化される可能性があります。

短期的な生産性向上のために、将来の人材を育成する仕組みまで失わせない政策が必要です。

6. AI・ロボットを必要な場合には積極的に利用すること

本要望は、AI・ロボットの利用を制限することを目的とするものではありません。

むしろ、

- 人間には不可能な仕事
- 極めて危険な仕事
- 人間には過酷すぎる仕事
- 大量のデータ処理
- 人間では処理できない規模の計算

- ・ 人材確保が困難な地域での仕事

などについては、AI・ロボットを積極的に活用すべきです。

特に人口減少や過疎化によって人材確保が困難な地域では、AI・ロボットの活用によって医療、介護、交通、物流、行政等のサービスを維持することが期待されます。

つまり、

人間ができる仕事はすべて人間に限定する

という考え方でもありません。

人間中心を原則としながら、人間だけでは社会を維持できない場合には AI・ロボットを積極的に利用する。

この柔軟な考え方が必要です。

7. 企業による AI・ロボット導入について、社会への影響を考慮すること

企業が AI・ロボットを導入することは、基本的に自由であるべきです。

ただし、政府が補助金、税制優遇、公共調達等によって AI・ロボット導入を支援する場合には、

- ・ 雇用への影響
- ・ 若者の技能形成への影響
- ・ 地域雇用への影響
- ・ 人材不足の実態
- ・ AI・ロボット導入の必要性
- ・ 従業員の仕事がどのように変化するか

などについても考慮する仕組みを検討していただきたいと思います。

特に、

「人手不足ではないにもかかわらず、単純な人件費削減のみを目的として、政府の支援を利用して人間の仕事を大量に AI・ロボットへ置き換える」

といったことが起きないように、支援制度について一定の基準を設けることも必要と考えます。

一方で、実際に人材確保が困難な地域や業種については、AI・ロボット導入をむしろ積極的に支援すべきです。

8. AI・ロボットによる生産性向上を「人間の生活の向上」につなげる

AI・ロボットによって生産性が大幅に向上すれば、社会全体としてより少ない労働で、より多くの商品やサービスを生み出せる可能性があります。

これは本来、人間にとって大きな恩恵です。

しかし、

生産性向上 → 人間の仕事が減る → 所得が減る → 消費が減る

ということになれば、生産能力が向上しているにもかかわらず、人間の生活が豊かにならないという矛盾が生じます。

したがって、AI・ロボットによって生み出された生産性向上の利益を、

企業だけでなく、働く人、生活者、地域社会を含めてどのように分配するのか

について、国として早急に研究・議論することを要望します。

9. 「仕事をする事」だけを人間の価値としない社会について議論すること

AI・ロボットが高度化すれば、人間が生活を維持するために必要な労働時間が減少する可能性があります。

これは、人間にとって本来歓迎すべき技術進歩です。

しかし、その場合、

「仕事をしない人は社会に貢献していない」

という考え方をそのまま維持すれば、技術進歩によって人間自身が否定されるという矛盾が生じます。

人間には、

- 家族と過ごす
- 子育てをする

- 趣味を楽しむ
- 地域活動をする
- 学ぶ
- 研究する
- 芸術活動をする
- 休む

など、仕事以外にも様々な生き方があります。

AI・ロボットの発展によって生まれる時間を、**人間がどのように使うことができる社会にするのか**についても、国として議論していただきたいと思います。

10. AI・ロボット政策を政党間の対立を超えて議論すること

この問題は、一つの政党だけで解決できるものではありません。

AI・ロボットの発展は今後も続き、雇用、教育、産業、地方、社会保障、所得分配など、社会のほぼすべての分野に影響を及ぼします。

したがって、

与党・野党が政党間の対立を超えて、10年、20年先の社会のあり方について議論する場を設けること

を強く要望します。

政府の政策を監視・批判することは野党の重要な役割ですが、この問題については、批判にとどまらず、それぞれの政党が具体的な対案を示し、より良い制度を共同で作り上げていただきたいと思います。

11. 日本から「人間中心の AI・ロボット社会」を世界に提案すること

この問題は日本だけの問題ではありません。

AI・ロボットが世界的に普及すれば、各国で、

- 雇用
- 教育

- 若者の職業経験
- 所得分配
- 人間の生き方
- 社会参加
- 人間の尊厳

などについて、同様の問題が生じる可能性があります。

日本は人口減少、高齢化、地方の過疎化という課題を抱えています。

だからこそ、

「AI・ロボットによって人間の仕事を最大限減らす社会」ではなく、「AI・ロボットを利用して、人間が多様な生き方を選択できる社会」

を目指す政策を日本から世界に発信する意義は大きいと考えます。

結び

AI・ロボットの技術革新を止めることを求めているものではありません。

人間にはできないこと、危険なこと、過酷なことを AI・ロボットに担わせることは、人類にとって大きな進歩です。

一方で、

「AI・ロボットにできるから、人間がやる必要はない」

という考え方を社会全体の原則としてしまうことには、強い懸念があります。

人間は一人ひとり違います。

能力も違います。

努力できる程度も違います。

仕事に対する考え方も違います。

人生に求めるものも違います。

高い収入を目指す人もいれば、自由な時間を大切にする人もいます。

高度な仕事を望む人もいれば、簡単な仕事を自分の生活に合わせて続けたい人もいます。

どのような生き方を選ぶかについて、人間一人ひとりが可能な限り選択できる社会を維持することが、人間社会の重要な条件ではないでしょうか。

AI・ロボットが人間より優秀になったとしても、**人間がAI・ロボットより優秀である必要はありません。**

重要なのは、

AI・ロボットを人間に合わせること。

人間をAI・ロボットに合わせるのではないこと。

です。

AI・ロボットの能力を最大限利用することだけを目的とするのではなく、

「AI・ロボットの発展によって、人間がどのような社会で、どのような生き方を選択できるようになるのか」

を先に考える必要があります。

AI・ロボットが社会の基本構造を大きく変えてしまう前に、今こそ国会及び政府において、

「AI・ロボットが高度化した社会を、私たちはどのような人間社会にしたいのか」

について、政党間の対立を超え、国民を含めた幅広い議論を開始していただくことを強く要望いたします。

以上